

## 令和2年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

### 1. 申請部局

学部・研究科名等：医学部・医学医療教育学、医学看護学教育センター

事業担当者の職・氏名：准教授、副センター長・櫻井洋至

内線電話番号：5823/7663

電子メール：hirodon@med.mie-u.ac.jp

### 2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

海外協定大学との学生交換事業

### 3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

## 4. 事業の取組結果

## (1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

COVID-19の影響により、学生が海外の医療現場、研究現場で学ぶプログラム(早期海外体験実習・海外臨床実習)を実施することができなくなり、また、海外協定校などからの短期留学生受け入れもできず、当初予定していた短期留学生への宿舎等の補助のための事業の執行は困難となった。

このため、医学部医学科での国際交流は、協定校を初めとする友好大学間でのオンラインを用いた交流活動を計画した。

## (2) 事業の背景・これまでの実績

## 【海外渡航・留学生受け入れ】(2019年度まで)

医学科6年生の臨床実習(海外エレクトィブ実習)累計で716名(2005-2019年、0-63名/年度)、2019年以前の過去5年間では、平均56名/年度(51-60名/年)で推移し安定していたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、渡航困難となり、実績なし。2019年には57名の実績があり、東南アジア17、アフリカ16、中東7、ヨーロッパ・北米15、南米2であった。

早期海外体験実習(医学科1-3年生)、臨床実習前準備実習(医学科4年生)では、2009年からの累計321名、2020年度は6年生同様新型コロナウイルス感染症拡大のため、渡航困難となり、実績なし。SARSウィルスパンデミックのため、2016年には10名まで減少したが、2019年以前の5年間は平均22名/年度(10-33名/年)であった。2019年には29名の渡航実績があり、内訳では東南アジア20、北米3、ヨーロッパ6であった

海外からの医学生受け入れについては、2006年以来累計で288名(2006-2019年、4-44名/年度)、2019年以前の5年間では平均32名/年度で推移し、2019年度には31名の海外医学生を臨床実習として受け入れ実績があり、その内訳は東南アジア17、中東9、南米1、ヨーロッパ5となっている。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、渡航あるいは受け入れ困難となり、実績なし。

その他外国人医師・研究者(短期1年未満)の受け入れは、2014年以降の累計で56名(7-12名/年度)で、受け入れ数の多い順に、タイ35名、バングラデシュ6名、メキシコ6名、インド5名、フィリピン、イタリア、中国、パラグアイ各1名となっている。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、渡航あるいは受け入れ困難となり、実績なし。

海外からの大学院生の受け入れは、27名(2014-2018年)で、国費優先制度留学生在が19名、私費留学生8名、国別にはガーナ、ミャンマー、中国が4名、タイ、バングラデシュ3名、ザンビア、インドネシア、エジプト2名、ネパール、ラオス、ブラジル1名となっている。

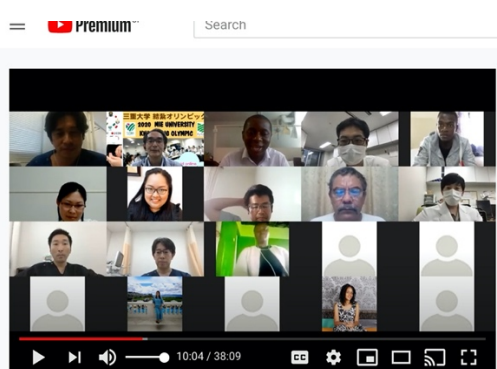
## (3) 事業実施結果

## 【新型コロナウイルスパンデミックの影響下での事業実施報告】(2020年度)

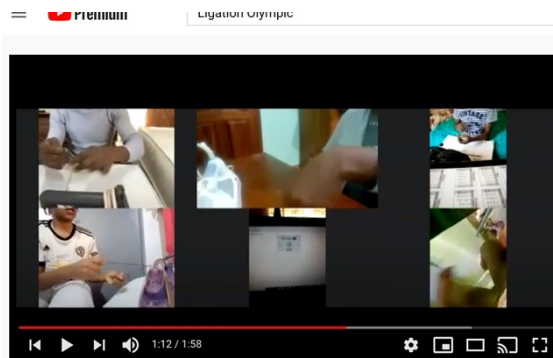
2020年度は医学生の海外渡航、海外学生、医師の受け入れ実績はなかった。これに変わるものとして、以下のようなオンラインを用いた交流イベントを行なっている。

1) 「三重大学結紮オリンピック 2020 MIE UNIVERSITY KNOT TYING OLYMPIC」(肝胆臓移植外科・三重大医学看護学教育センター)

三重大大学をはじめ、ザンビア大学、コアウィラ大学(メキシコ)、コンケン大学(タイ)、サントトマス大学(フィリピン)の学生・レジデント・教員の参加による結紮技術を競うイベント「三重大学結紮オリンピック 2020 MIE UNIVERSITY KNOT TYING OLYMPIC」の開催(令和2年7月16-27日、4カ国50名)



OpeningSession Ligation Olympic



Team Young Emerging Scientists Zambia

2) 「中央・東・南アフリカ諸国外科系専門医試験(COSECESA)」(令和2年9月2日)に三重大大学は日本会場として参加・会場提供(17カ国を結んで開催。三重大大学での受験者:形成外科領域・ザンビア大学からの大学院留学生1名、試験監督2名(三重大大学教員、ザンビア大学留学生))

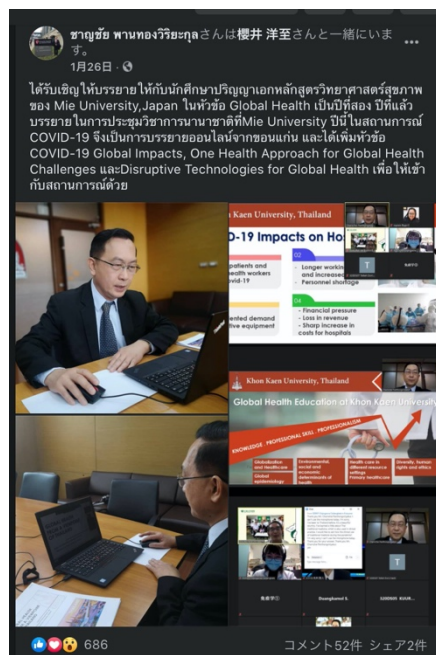


3) 大学院博士課程講義「国際保健医療特論」(「Special Lecture for Global Health」)にて、St. Jude病院(アメリカ)、ムヒンビリ大学(タンザニア)、野口研究所(ガーナ)、コンケン大学(タイ)とコアウィラ大学(メキシコ)の先生方によるオンライン講義

いずれも学生・教員の相互訪問の交流が盛んに行われており、タイ、メキシコの講義には以前に海外実習で現地を訪れた三重大生、卒業生も参加した。

(4) 事業の意義

新型コロナウイルス感染症下での海外交流が困難となっている中で、オンラインにより、講義・セミナーだけでなく、教育的なイベントの開催による海外協力を続けている。



## (5) 事業の発展性

すでに 2020 年度から上記の国際交流事業を開始しているが、次年度も COVID-19 の状況が改善する保証がないことや渡航への制限は持続すると思われることから、オンラインでの講義、ワークショップを用いた医学生、教員の国際交流支援を行なっていく予定である。

## (6) 中期目標・中期計画における位置づけ

### D-1-a-① 国際セミナー・シンポジウム開催実績：

国際保健医療学会（堀浩樹会長、医学看護学教育センター、平成 31(2019)年 12 月、6 カ国（日本、タイ、ザンビア、タンザニア、カンボジア、フィリピン）・参加者数 548 人）の開催。

大学院博士課程講義「国際保健医療特論」。

海外渡航学生数(1-6 年全体)： 70 名(平成 28 年)、71 名(平成 29 年)、84 名(平成 30 年)、86 名(令和元年)、0 名(令和 2 年)

受け入れ留学生数： 27 名(平成 28 年)、44 名(平成 29 年)、37 名(平成 30 年)、31 名(令和元年)、0 名(令和 2 年)

### D-1-a-② キャリアアップセミナーなどの実績は以下の通り

「三重大学結紮オリンピック 2020 MIE UNIVERSITY KNOT TYING OLYMPIC」の開催（令和 2 年 7 月 16-27 日、ザンビア、メキシコ、タイ、日本の 4 カ国より医学生、レジデント、外科教員 50 名がオンラインで参加）（再掲）

### D-1-a-③外国人研究者・教員招聘実績は以下の通り。

平成 28(2016)年： 7 名（タイ 4、インド 1、メキシコ 1、フィリピン 1）

平成 29(2017)年： 12 名（タイ 12）

平成 30(2018)年： 11 名（タイ 8、メキシコ 3）

平成 31・令和元(2019)年： 10 名（タイ 4、インド 3、イタリア 1、中国 1、パラグアイ 1）

令和 2(2020)年： 海外からの受け入れ実績なし。

### D-1-b-① 国際締結

新規： コアウィラ大学 ・メキシコ（2020）

継続： ペルージャ大学・イタリア、コンケン大学・タイ（2020）

## (7) その他

## 令和2年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

### （1）事業概要（簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください）

COVID-19の影響により、学生が海外の医療現場、研究現場で学ぶプログラム（早期海外体験実習・海外臨床実習）を実施することができなくなり、また、海外協定校などからの短期留学生受け入れもできず、当初予定していた短期留学生への宿舍等の補助のための事業の執行は困難となった。

このため、医学部医学科での国際交流は、協定校を初めとする友好大学間でのオンラインを用いての交流活動を計画した。

### （2）事業の背景・これまでの実績

#### 【海外渡航・留学生受け入れ】（2019年度まで）

医学科6年生の臨床実習（海外エレクトィブ実習）累計で716名（2005-2019年、0-63名/年度）、2019年以前の過去5年間では、平均56名/年度（51-60名/年）で推移し安定していたが、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、渡航困難となり、実績なし。2019年には57名の実績があり、東南アジア17、アフリカ16、中東7、ヨーロッパ・北米15、南米2であった。

早期海外体験実習（医学科1-3年生）、臨床実習前準備実習（医学科4年生）では、2009年からの累計321名、2020年度は6年生同様新型コロナウイルス感染症拡大のため、渡航困難となり、実績なし。SARSウィルスパンデミックのため、2016年には10名まで減少したが、2019年以前の5年間では平均22名/年度（10-33名/年）であった。2019年には29名の渡航実績があり、内訳では東南アジア20、北米3、ヨーロッパ6であった

海外からの医学生受け入れについては、2006年以来累計で288名（2006-2019年、4-44名/年度）、2019年以前の5年間では平均32名/年度で推移し、2019年度には31名の海外医学生を臨床実習として受け入れ実績があり、その内訳は東南アジア17、中東9、南米1、ヨーロッパ5となっている。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、渡航あるいは受け入れ困難となり、実績なし。

その他外国人医師・研究者（短期1年未満）の受け入れは、2014年以降の累計で56名（7-12名/年度）で、受け入れ数の多い順に、タイ35名、バングラデシュ6名、メキシコ6名、インド5名、フィリピン、イタリア、中国、パラグアイ各1名となっている。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、渡航あるいは受け入れ困難となり、実績なし。

海外からの大学院生の受け入れは、27名（2014-2018年）で、国費優先制度留学生在が19名、私費留學生8名、国別にはガーナ、ミャンマー、中国が4名、タイ、バングラデシュ3名、ザンビア、インドネシア、エジプト2名、ネパール、ラオス、ブラジル1名となっている。

### （3）事業実施結果

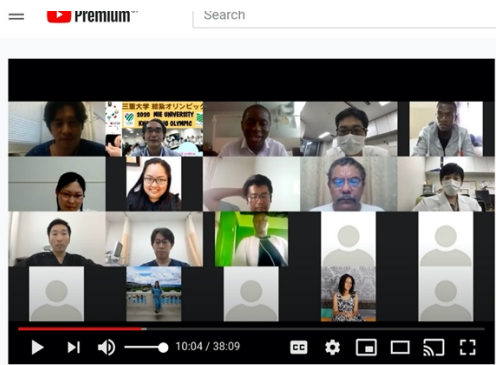
#### 【コロナウィルスパンデミックの影響下での事業実施報告】（2020年度）

2020年度は医学生の海外渡航、海外学生、医師の受け入れ実績はなかった。これに変

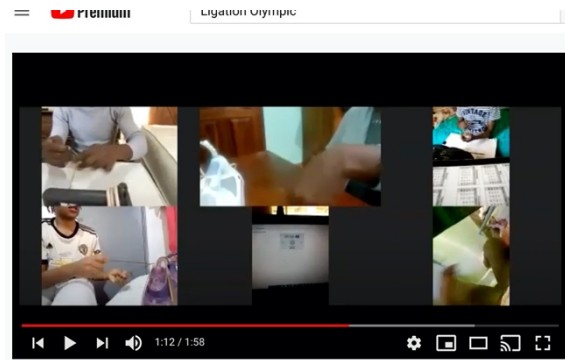
わるものとして、以下のようなオンラインを用いた交流イベントを行なっている。

1) 「三重大大学結紮オリンピック 2020 MIE UNIVERSITY KNOT TYING OLYMPIC」(肝胆膵移植外科・三重大医学看護学教育センター)

三重大大学をはじめ、ザンビア大学、コアウィラ大学(メキシコ)、コンケン大学(タイ)、サントトマス大学(フィリピン)の学生・レジデント・教員の参加による結紮技術を競うイベント「三重大大学結紮オリンピック 2020 MIE UNIVERSITY KNOT TYING OLYMPIC」の開催(令和2年7月16-27日、4カ国50名)



OpeningSession Ligation Olympic



Team Young Emerging Scientists Zambia

2) 「中央・東・南アフリカ諸国外科系専門医試験(COSECSA)」(令和2年9月2日)に三重大大学は日本会場として参加・会場提供(17カ国を結んで開催。三重大大学での受験者:形成外科領域・ザンビア大学からの大学院留学生1名、試験監督2名(三重大大学教員、ザンビア大学留学生))



3) 大学院博士課程講義「国際保健医療特論」(「Special Lecture for Global Health」)にて、St. Jude病院(アメリカ)、ムヒンビリ大学(タンザニア)、野口研究所(ガーナ)、コンケン大学(タイ)とコアウィラ大学(メキシコ)の先生方によるオンライン講義

いずれも学生・教員の相互訪問の交流が盛んに行われており、タイ、メキシコの講義には以前に海外実習で現地を訪れた三重大生、卒業生も参加した。

#### (4) 事業の意義

新型コロナウイルス感染症下での海外交流が困難となっている中で、オンラインにより、講義・セミナーだけでなく、教育的なイベントの開催による海外協力を続けている。

